

令和7年度 八王子市立浅川小学校 学校経営計画

校長 藺田 賢志

はじめに

昨年度、東京都の教科担任制等推進校として活動し、今年度は教科担任制加配校として取り組み、高学年教科担任制で2年間の指導を受けた卒業生を送り出します。

高学年は音楽や図工、家庭科、理科、外国語のそれぞれの専科が授業を行い、各担任も社会、国語、体育などを分担して受け持つことにより、専門性の高い教員の習熟した指導が可能となり、併せて学年団を中心とする多角的・多面的な児童との関係性に基づく生活指導を行ってまいりました。

さらに今年度は、教科担任制の高学年における取り組みに加え、1～4年生は教員配置を昨年度とほぼ同じにして、習熟度の高い授業と生活指導の充実を目指しました。多くの先生方が2年続けて同じ学年の指導にあたることで、去年と同じ内容の教科等指導を行い、慣れた学年の学級経営、行事等の運営を行い、働き方改革を進めるとともに教育活動の充実を図っていきたいと考えています。

また、昨年度に引き続き、地域を学ぶ郷土学習や人間関係の醸成・主体的な活動を重視する特別活動、お互いを思いやることを基本とした人権教育、ESD教育とSDGs教育、GIGAを活用した教育活動などを、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図りながら進めてまいります。

1 学校教育目標

人権尊重の精神を基調とした知性や感性、道徳心を身に付け、健康で、たくましく豊かな人間性を培う。併せて、地域社会や世界と関わる中で自己実現を図り、国際感覚や社会性、主体性、創造性が調和した、地域を愛する「ふるさと高尾 ふるさと浅川 心豊かな浅川の子」の育成をめざし、地域運営学校として家庭や地域と連携・協働し、社会に開かれた教育課程を実現する。

2 めざす児童像

「ふるさと高尾 ふるさと浅川 心豊かな浅川の子」

知・徳・体の視点から見た子どもたちの姿が以下の児童像となる。

- ◎自ら学び 高め合い やりぬく子ども
- 思いやりをもち お互いを認め合える子ども
- 明るく 元気で たくましい子ども

3 めざす教師像

- 健康で明るく、元気で前向きに取り組む教師
- 特別活動や特別支援、教科教育等の研修に励み、向上をめざす教師
- 安全を基盤とした教育活動を、設計・コーディネートできる教師
- 社会の中で生きていく人を育てているという使命感をもった教師
- 社会の常識をそなえ、教育公務員としての自覚をもつ教師
- 学校の課題を自分事として捉え、組織的に解決する教師

4 めざす学校像

- 子どもも教師も笑顔溢れる前向きな学校(学びたい・挑戦したい・がんばりたい・充実させたいなど)
- コミュニティスクールとして地域とつながる学校(学校を応援したい・子どものために取り組みたい)
- 持続可能な社会を考える児童を育成する学校(SDGs・ESDなどを通し、広い視野で未来を考える)

5 中・長期的展望

- 地域とつながる教育活動を展開し、地域と協働的な開かれた学校をつくる。
- 人生を切り拓いていくために必要な資質・能力（AI がもたらす社会変化・何ができるようになるのか）という考え方をベースにした教育活動。
- ダイバーシティ&インクルージョンの視点からの「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実。

6 令和7年度の主な教育活動（取り組み目標と方策 ◎重点目標）

◎確かな学力の育成（教科担任制・GIGA スクール構想に対応した教育活動の構築）

- （1）教科担任制による授業の充実
- （2）GIGA 部の校内組織への常設、全学年の系統性を包含した ICT 教育活動の計画
- （3）教科等の教育活動や特別活動における ICT の活用場面の促進
- （4）個別最適化・協働的な学びを意識した授業の実施
- （5）ICT を活用した個に応じたミライシードの活用
 - ※習得目標問題やはちおうじっこミニマムに的を絞った活動の設定
 - ※2年継続した同学年を担当する教員の学年配置による学習指導の充実
 - ※小中一貫教育の充実（小中の交流活動・校内研究の系統的な学び）

◎系統性や環境等を考慮した特色ある郷土学習の実践

- （1）全学年で郷土学習を計画的に実施
- （2）地域の方と連携した人とつながる教育活動
 - ※ 日本遺産である高尾山を中心とした地域学習の充実

◎児童の恒常的な人間関係の醸成

- （1）人権教育の充実（特別活動・道徳教育・教育相談・特別支援教育）
- （2）自己実現・人間関係形成・社会参画を意識した特別活動の充実
 - ※人の気持ちが分かる、思いやりのある子どもの育成

◎地域・家庭との連携（信頼される学校づくり）

- （1）学校だよりを始めとした諸連絡の Home&School の活用
- （2）保護者会・学校公開・アンケート等の ICT の活用
- （3）ゲストティーチャーや授業サポートの協力の依頼
- （4）学校運営協議会、PTA をはじめ、各組織と連携した学校運営。
 - （19町会・自治会、社会福祉協議会、青少対、安全ボランティア、はちビバ等）
 - ※地域を基盤とした、過去からつながり、今を積み重ね、これからの未来を創る教育

◎SDG s ・ ESD の視点を取り入れた教育活動の充実

- （1）ユネスコスクールへの正式登録と取組の深化（ユネスコスクールからの学び）
- （2）給食・保健・衛生指導の充実（SDG s ・ ESD の学び）
- （3）地域学習や環境改善事業から考える（環境改善事業・地域学習からの学び）

<令和7年度の目標と方策に対する評価>

1 確かな学力の育成（教科担任制・GIGA スクール構想に対応した教育活動の構築）

具体的方策	評価項目・担当
① 教科担任制における、各種管理組織と実施上の課題や分析検討会議	① ・時間割管理、授業時数管理、教室配当管理等の組織的な対応とアプリの活用の検討（教務部） ・高学年組織における課題と分析の検討会の実施と学習指導力の向上を含めた評価（管理職・主幹・高学年）
② GIGA 部の校内組織への常設、全学年の系統性を包含した ICT 教育活動の計画	② ・GIGA 部による業務の仕分け作業 ・ICT の活用状況の確認（授業観察・GIGA 部内評価）（キーボー島など、習得の指標となる活動の明確化）
③ 教科等の教育活動や特別活動における ICT の活用場面の促進	③ ・GIGA ミニ研修の実施（GIGA 部） ・タブレットを活用した授業の日常化（クラス・専科） ・委員会やクラブ発表 ・環境整備（予算の有効活用）
④ 個別最適化と協働学習を意識した授業の実施	④ ・ミライシード（授業支援）の日常利用による個別習熟の推進と見取り（クラス） ・研究授業における個々の学習の深化と見取り（校内研究）（特に主体的に取り組む態度への働きかけ） ・総合的な学習の時間や生活科、特別活動等におけるグループによる課題解決学習の推進（学年・クラス）（プロジェクト型学習を意識した取り組み）
<ul style="list-style-type: none"> ・朝の時間に「まんてんぐタイム」を月2回程度設定し、はちおうじっ子ミニマムや習得目標問題に的を絞った問題に取り組ませる。 ・市学力調査の分析を夏季休業中に行い、夏季休業中の補修学習における中学生の指導補助やミライシード、ベーシックドリルを活用して、児童の学力定着を図る。 ・2年継続した同学年を担当する教員の学年配置による学習指導の充実 ・小中一貫教育の充実（小中の交流活動・校内研究の系統的な学び） 	

2 系統性や環境等を考慮した特色ある郷土学習の実践

具体的方策	評価項目・担当
① 郷土愛を育む「郷土学習」の計画的な実施	①② ・高尾山を教材とした体験学習や調べ学習を全校で系統的に実施 ・地域学習 1年栗山探検 2年町さんぽ・町探検 3年初沢山調査・絹織物・市内巡り 4年川調査 5年森林ふれあい推進センター 6年高尾山調査

<p>② 地域の方と連携を取り入れた、人とながらる教育活動</p>	<p>①②・機織伝承会による織物教育の充実と八王子の語り部による読み聞かせ（1～2年）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長田養蚕と連携した絹織物等の体験活動（3年） ・エコ広場、栗山保存会、社協、保幼小連携（1346年） ・学運協会長のごみ学習（4年） ・拓殖大学の留学生との交流（6年）
<p>※日本遺産である高尾山を中心とした地域学習の充実 各学年「郷土（地域）学習」の充実と学校運営協議会、学校支援コーディネーターを窓口とする地域人材や関係機関と連携機能強化を図る。</p>	

3 児童の恒常的な人間関係の醸成

具体的方策	評価項目・担当
<p>① 人権教育の充実のため、道徳教育・いじめ対策・教育相談活動・特別支援教育の充実</p>	<p>①・人権教育・道徳の指導計画に沿った学年全体での取組の計画的運営（各学年）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権に関わる認知（生活指導夕会・各学級活動等） ・組織的な対応で子どもからの訴えを受け止め、確実にいじめを解消させていく。3か月間の事後経過観察も行い、再発防止に努める。（重大事態発生0） ・いじめに関するアンケート年3回実施（全学年） ・QUの活用とSCや学年団での共通理解（5・6学年） ・外部講師や組織の活用（SNSルール、ケース会議等） ・教育相談・特別支援教育の充実（SCの活用、特支委員会） ・不登校傾向にある児童や不安を抱えている児童の家庭とSCやSSWとの連携（生活指導部） ・教科担任制により、子どもとつながる大人の充足、学年団による子どもの見取りの充実（学年）
<p>② 自己実現・人間関係形成・社会参画を核とした特別活動の充実</p>	<p>②・縦割り班及び委員会、クラブ活動の充実（特活部）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の自己実現、人間関係形成をねらう特別活動を各学級で取り組む。各行事における縦割り班の活用、学級会、委員会等の充実（児童・保護者評価）

4 地域・家庭との連携（信頼される学校づくり）

具体的方策	評価項目・担当
<p>① 学校だよりを始めとした諸連絡のHome&Schoolの活用</p>	<p>①・配信による連絡事項の確実性及び即時性、精度の向上（学校・学年）</p>

<p>② 保護者会・学校公開・アンケート等のオンライン化の実施</p> <p>③ ゲストティーチャーや授業サポートの協力の依頼</p> <p>④ 学校運営協議会、PTAをはじめ、各組織と連携した学校運営</p>	<p>・欠席連絡のやり取りによる状況確認（担任）</p> <p>②・デジタルコンテンツの活用（保護者負担減）</p> <p>・動画配信による保護者会・連絡等の実施（GIGA部）</p> <p>・アンケートの配布や集計の精度向上及び簡略化（教員負担減）</p> <p>③・学校教育への保護者参画（PTA等）</p> <p>・学校運営協議会員による学校サポーター（学運協）</p> <p>・地域の協力者への計画的な連絡（学年・副校長）</p> <p>④・各会からの学校行事への参加(各団体)</p> <p>・各団体の会議等への出席と連携（管理職・主幹）</p>
<p>具体的な地域に根差した連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動（年3回のあいさつの日とあいさつ週間） ・危険箇所マップを活用した通学路点検（実施状況・生活） ・通学路の見回り（安全ボランティアの方の確認、外部評価） ・PTA、青少対、町会行事への参画及び参加、浅川スポーツクラブとの連携（外部評価） 	

5 SDG s 及び ESD の視点を取り入れた教育活動の充実

具体的方策	評価項目・担当
<p>① ユネスコスクールへの正式登録と取組の深化</p>	<p>①・ユネスコスクールの正式登録と補助事業への参画</p> <p>・他のユネスコスクールからの情報による教育活動の充実（担当・校長）</p> <p>・ユネスコスクールの活動報告の検討（担当）</p> <p>・本校の常時活動の価値づけ（担当－活動報告に反映）</p>
<p>② 給食・保健・衛生指導の充実</p>	<p>②・給食管理員・養護教諭による食育の充実（地産地消）（生活指導 給食）（残さいの量の減少）</p> <p>・生涯体育、保健・衛生指導などの充実（体育、保健指導、生活づくり、清掃等）</p>
<p>③ 地域学習や環境改善事業から考える</p>	<p>③・八王子未来デザイン 2040 に基づく LED 化、水道の自動水栓化の周知とその意味の学習機会</p> <p>・地域学習の充実により培われる、自然あふれる浅川地区の価値を再認識し、SDG s ・ ESD の理解を深める</p>